

## 論文審査の結果の要旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 789 号	氏名	山下 恭徳
学位審査委員	主 査	池田 通	
	副 査	林 善彦	
	副 査	中山 浩次	
論文審査の結果の要旨			
<p>1 研究目的の評価</p> <p>本研究は、炎症性サイトカインの一つである腫瘍壊死因子 (TNF-<math>\alpha</math>) によって吸収能を持った破骨細胞を形成させるための、破骨細胞分化因子 (RANKL) の前刺激の影響を解明したもので、破骨細胞形成メカニズムの一端を解明するものとして目的は十分に妥当である。</p>			
<p>2 研究手法に関する評価</p> <p>骨髄マクロファージを用いたシンプルな <i>in vitro</i> の破骨細胞形成系を用い、いろいろな条件で TNF-<math>\alpha</math> による吸収能を有した破骨細胞形成への RANKL の前刺激の影響を検討している。吸収能の評価にはリン酸カルシウムがコーティングされたディッシュを用い、明確に吸収窩形成が検出されており信頼できるものである。</p>			
<p>3 解析・考察の評価</p> <p>上記手法で解析した結果、TNF-<math>\alpha</math> のみでは吸収能を持った破骨細胞は形成できないが、RANKL の前刺激により TNF-<math>\alpha</math> で吸収能を持った破骨細胞を誘導できることが示されている。またこの時に与えられる RANKL の前刺激の程度の重要性も示されている。これらの結果に対して論文の中で、今までの報告や考えられるメカニズムさらには今後の臨床への貢献など多方面から十分に考察されている。現在骨吸収抑制に抗 TNF-<math>\alpha</math> 製剤が用いられているが、炎症組織の骨吸収では単独のサイトカインのみを標的とするのではなく、多種のサイトカインの影響を考慮した治療法の開発が望まれる。今回の報告は骨破壊の複雑性を示すもので、今後の骨破壊のメカニズム解明の手助けになるものと期待される。</p>			
<p>以上のように本論文は歯周病学の研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士 (歯学) の学位に値するものと判断した。</p>			